

「高齢者や子供たちにとっても
楽しい場所として、
多くのみなさんに愛される
『ふるも』であってほしい」



長沼憲彦

最近、楽しい友人が二人でま
らかな笑顔がいつぱい。
79歳とのことだが、年齢よりよ
ほど若々しい。

出合いの場所は、温水プール「ふ
るも」。

オープン以来、半年余りで、当
初予想していた入場者の2倍以上
という好評をいたしながら、そ
れでもお客さまの入りか、気がか
り、週に一度はヒマを見つけて
「ふるも」に通っているときのこと
である。

もう一人は、まだ若い両親と
いっしょの1歳の女の子。

幼児用プールで、浮き輪に乗っ
て心地よさそうに浮かんでいる姿
が、あまりに可愛いので、挨拶を
したところ、疑わしい眼で見返す
だけ。

プールの水中歩行専用コース
で、熱心に歩いている女性を
見かけたので、話しかけると、「こ
の年で、水着なんて」と、はにかん
でいましたが、「ヒザが悪くて、運
動できないので、思い切って（水
に）入ってみたら、動きがとても楽
で、体の調子も良く、今ではすつ
かりやみつきになりました」と、朗

航は道北経済発展の起爆剤とい
うことから、平成11年に産業・経
済団体による「留萌港フェリー就
航促進道北連合会」ができました。
この2つの組織を主軸に、貨物
流動・観光需要の調査、フェリー
会社との折衝、想
定相手港訪問やP
R活動を行い、昨
年10月には、留萌
港にフェリーを入
港させ、フェリー
就航のデモンスト
レーションとして
試験運航を行いま
した。

「今日もダメかな」と言いながら、
ホッペをつついてやると奇跡が起
きた。「ニコッ」と笑ってくれたの
である。
「ようやく認めてくれたね」と、
その子の両親と大笑いをして帰っ
て来た日の嬉しかったこと。

プールの友人たち

Norihiko のパッショントーク 1

Naganuma Norihiko in Passion Talk.....

■今月から、市長のコラムが
始まりました。市長からの熱
気あふれるパッション・ト
ークをお読みください。

■いろんな話題で市長と話
してみませんか？

問合せ：留萌市役所企画課
☎ 42・1801(内線 293)

温 水プールを作ることが、市民
の夢だったわりには、少し理
想と違うものが出来てしまったが、
市民の元気回復のために、そして
高齢者や子供たちにとっても、楽
しい場所として多くのみなさんに
愛されることを願っている。

今月から「市政の今」をリポート
する『広報クンが行く』を始めま
す。1回目は「フェリー就航の行
方」について、笹嶋・フェリー就航
推進課長に聞いてみました。

フェリーってどんな船？

フェリーは、大量にしかも安い
運賃で、貨物（トラック）はもちろ
ん、運転手、旅客、乗用車・バス
などを運ぶ船です。ですから、ト
ラックがそのまま船に乗り込み、
目的の港に着き、消費地まで貨物
を直送することができます。

誘致はどうして始まったの？

道北にはフェリーの発着する港
がなく、農産物や水産品などの貨
物は、小樽港や苫小牧港、室蘭港
まで遠距離の陸上輸送が必要で、
高い運賃がかかっています。

そのため、道北の荷主や輸送会
社から「留萌港に早くフェリー
を！」という強い要望が寄せられ、
平成8年3月にフェリーふ頭整備
を盛り込んだ「港湾計画」ができ、
誘致運動が始まりました。

同年11月、道北各地の官庁や経
済団体で「留萌港フェリー就航促
進期成会」を組織し、「フェリー就

フェリー就航 の条件は？

道北から本州に
出す貨物は、毎日
運航可能な量があ
りますが、本州か
ら道北へ来る貨物
は、週3便分しか
ないので、このアンバランスの解
消が第一の条件です。

もう一つの条件は、港湾や高規
格道路の整備で、平成17年度まで
には、港・道路とも必要最小限の
受け入れ態勢が整う予定です。



広報クンが行く！ 「フェリー就航の行方」

フェリー就航のメリットは？

①道北の貨物輸送費を年間で40
億円以上削減、②観光消費で年間
20億円以上の収益、③留萌市には、
新たな雇用が見込まれ、運航必要

相手港はどこなの？

また、決っていませんが、日本
海に面する北陸地方のいくつかの
港をターゲットに、対象となる港
の空きバース（ふ頭）、利用できる
曜日・時間、航路について情報収
集をしています。

フェリー就航の可能性は？

現在、フェリー就航を取り巻く
環境は、不況による貨物量の減少、
航路の自由化による競争の激化、
貨物船との競合など、大変厳しい
状況です。しかし、留萌航路がコ
スト的に優れていることや道北圏
には豊富な貨物量があることは、
各船社も理解していますから、景
気が回復すれば、チャンスは充分
あります。

今後は、フェリー会社が航路を
開設しても採算が取れるような
データを集め、相手港の選定にも
積極的に取り組みます。

また、フェリー就航の目的は、
「地域の産業振興」ですから、新
たな産業創出の機会作りや起業家
の誘導にも力を入れていきます。

※詳しくは、フェリー就航推進課
☎ 49・2501まで。